

IRRBB対応コア預金モデル構築サービス

銀行勘定の金利リスク規制（IRRBB）の2018年3月施行※に伴い、最重要課題であるコア預金モデルの構築サービスを提供致します。貴社流動性預金データによるモデル構築により、デュレーション、アウトライヤー比率の精緻化、および安定化が実現可能です。各種モデルの試行、および人口動態の考慮等により最適なモデルを提案致します。

※国内基準行は2018年3月からの1年間は準備期間として対応が求められます。

サービス内容と特色

1. コア預金推定モデルの構築

- ✓ 各金融機関の流動性預金残高データに基づき、コア預金残高、マチュリティラダー、金利エクスポージャー、デュレーションを推定します。実態を反映したモデル評価により、アウトライヤー比率の精緻化・安定化が可能となります。
- ✓ 景気変数モデル、金利モデル、AA-Kijimaモデル、ヒストリカル手法など各種モデルの試行により、貴社に最適なモデルを提案致します。

※弊社分析におけるデュレーション算出結果例(個人・法人残高加重平均満期)は、金融庁標準的手法1.25年、普及モデル(AA-Kijimaモデル)約3年、弊社景気変数モデル約5年。

- ✓ 適切なデータ処理、モデルの改良により、合理的かつ安定した推計方法を実現します。

2. モニタリングサービス

- ✓ 最新のデータを前提に必要なパラメータを適宜アップデートし、十分なモデル精度を維持し続けるよう精度の確保を行います。

3. 検証報告書とカリキュレーター提供

- ✓ 当局報告に必要なモデルロジック、モデル構築プロセス、検証内容を報告書として提供致します。
- ✓ 必要な頻度で金利エクスポージャーラダーなど必要な結果が算出可能なエクセルファイルを提供致します。

4. その他サポート

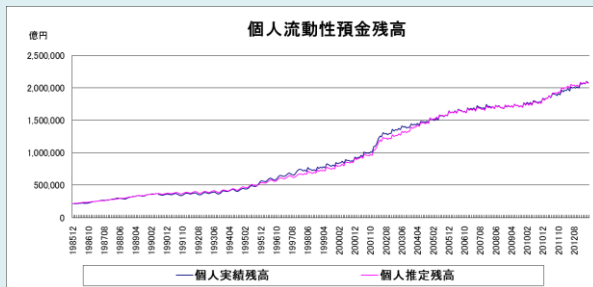
- ✓ 当局からの質問への対応や対外説明に必要な説明資料の作成などのサポートを行います。

※ 貴社データでの試算を無料で承りますので、下記連絡先までお問い合わせください。

分析例

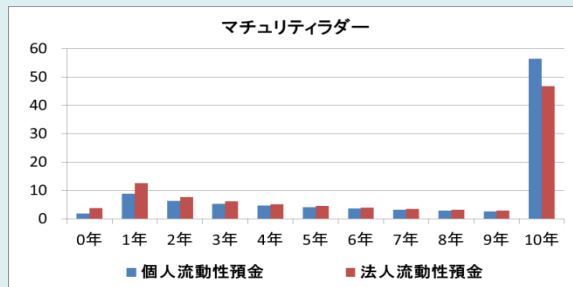
全国銀行流動性預金データによる分析例

【流動性預金残高推定】



高い精度での預金残高の推定が可能。

【マチュリティラダー】



預金の半分程度が10年以上の資金満期をもつということが示唆される例も多く見られる。コア預金を資金満期別比率に分類し、アウトライヤー比率の計算を行う。

導入実績と利用事例

以下事例にて、IRRBB対応のコア預金モデルとして採用されています。

- **大手金融機関** 複数モデルによる比較検証を実施。人口動態についても考慮。
- **地方銀行 1** 複数モデルによる比較検証を実施。定期預金も含む総預金モデルでの検証も実施。
- **地方銀行 2** 複数モデルによる比較検証を実施。
- **信用金庫** 実態を反映したアウトライヤー比率の算出。結果の改善と安定化を実現。

※ コア預金： 明確な金利改定間隔がなく、預金者の要求によって随時払い出される預金のうち、引き出されことなく長期間滞留する預金。

※ アウトライヤー比率： 自己資本に対する金利リスク量の比率。